

## 令和4年度第6回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和4年11月29日（火） 午前10時30分から12時05分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史  
理 事 清水 恒広、岡野 創造、森 一樹、半場 江利子、松本 重雄、  
位高 光司、能見 伸八郎、白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男 中島 俊則  
事務局 折戸経営企画局次長、大島京北病院事務管理者・統括事務長、菱田経営企画課長

### 1 開会

### 2 報告事項

#### (1) 第4期中期計画（案）について（議題）

- 資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明し、承認された。
- 第4期では、京北地域の後期高齢患者が増加していくことが強調されているが、市内全体においても同様ではないか。
    - 御指摘のとおり市内全体で高齢化が進行するが、影響度合いが異なる。京北地域は人口減少とともに特に高齢化が進行しているため、将来を見据えた対応が必要と考えている。
  - 市立病院も高齢患者が多く、高齢化によって更なる患者数増加が予想される。数値目標がほぼ横ばいとなっている項目があるが、そのことを見越した結果か。
    - 救急車搬送受入患者数については、高齢化と救急搬送に比例関係があるとまでは言い切れないが、市立病院の受入れ可能件数の上限に近い数値を設定している。
    - 回復期、慢性期病床を有する医療機関との連携強化による急性期病床の効果的な運用及び居宅や介護・福祉施設からの緊急入院患者の迅速な受入れを計画に盛り込んでいる。当院は二次救急を扱う医療機関であり、重症患者を中心とした受入件数の目標を年間6,700件に設定したところである。
  - 京北病院に関するアピールがもう少しあるとよい。また、働き方改革を現在の職員数で行う場合、長時間を要する手術の適切な運用が必要である。放射線治療をしっかりと受けられる施設は市内でも限られているため、宣伝し、患者獲得に努めるとよい。全体として、大筋は案のとおりでよい。
  - PFI手法の検討に係る目標において、「「再」検討」と表現した意図は何か。
    - 現在のPFI契約についても一部見直しを行っているが、長期包括的な事業契約が令和9年度に終了することから、引き続き委託すべき内容を改めて精査・検討する。このことから、「「再」検討」とした。
  - 目標数値のうち、手術件数が第3期から第4期で減少しているが、現状を考慮した数値か。
    - 第3期の計画を策定するに当たり、当時、手術室を増床する構想があったため、高い目標数値となっていた。第4期については現状に則した目標数値としている。
  - 後発医薬品について、閣議決定で使用割合の目標が80%とされているが、市立病院の現状はどうか。また、今後の目標は何%か。
    - 使用率は90%を超えており、今後も90%程度を目標に取り組んでいきたい。

- 人材確保について、第4期期間中はどのように見込んでいるか。
- 看護師採用においては、実習受入れ・指導に特に注力し、長期にわたって働きたいと志望する学生の採用を増やしていきたい。また、看護補助者の採用に当たって、より活躍してもらえるよう仕組みの整備に取り組む。
- 当院では、近年、研修医を13名ほど受入れているが、専攻医の研修においても引き続き当院を選んでもらえるよう、現場で取組を進めていく。

## (2) 令和4年度年度計画進捗状況概要（上半期）

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 人間ドックの受検者数が半期の目標値2,400人に対して1,891人となっているが、市立病院で提供する人間ドックの強みは何か。
- 内視鏡検査に係るマンパワー不足が課題となっており、目標値に達していない。ゆっったりと過ぎせる点が強みだと考えている。
- 他院と比較すると動線が少なく済む。また、基本的な結果については即日医師から直接説明される点も強みの一つである。

## (3) 月次収支（9月）報告（報告事項）

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 京北病院は前年度と比較すると厳しい状況が続いているが、京北町の人口減少と関連はあるのか。
- 9月については、コロナ感染による老健施設の受入れ停止等の影響で収入が落ち込んだ。今年度全体においては、人口減少の影響も一定はあると思われる。
- 市立病院については10月、11月も同様の傾向が続くか。
- 同様の傾向が続く見込みである。

## 3 その他

なし

## 4 閉会